

『「早く早く」が子どもをダメにする』

(多湖 輝著、新講社、2008.8.)

本書は、「はじめにー親子にとって大切な時間があります」で始まります。「この本を読んで、自分のログセを思い出し、クスクス笑って下さるお母さんになって欲しい」と著者は述べています。学校でも、金言として心したいと思った箇所を紹介します。

- 「早くしなさい」と「ちゃんとしなさい」で子どもは混乱する
- 「早く早く」が子どもの自立心をさまたげる
- 「早く早く」で子どもの集中力が途切れる
- 「早く早く」で自己管理が苦手な子になる
- 「はっきりしなさい」で子どもの心のモヤモヤが強くなる
- 「まったく」で、子どもは投げやりな気持ちになってしまう
- 「今日は仕方ないわね」では本当のしつけはできない
- 「どうなの?」「できたの?」が、子どもを言い訳上手にしてしまう
- 「もうわかった」は、子どもの気持ちを切り捨てる言葉
- 「あわてないで」の一言は穏やかに言いましょう
- 「それより宿題は済んだの?」では、子ども追い詰めるだけ
- ウソでもいいから「ヒマだなあ」と口にすると親子の心が明るくなる
- 「お父さんに言うわよ」はもはや効果のない言葉
- 「男の子のくせに」と言うより力仕事をさせよう
- 「そのうちわかるわよ」ではなくいまから少しずつ分かってもらおう

など